

令和2年度 鳳凰高等学校自己評価表

学校経営方針	教育基本法及び学校教育法を礎に、本学園の建学の精神である「 誠実にして社会に役立つ情操豊かな人間教育 」の実現のために学園の総力を結集し、その教育成果をもって地域社会の信頼に応え、開かれた学園として社会に貢献する。
学校教育目標	1.建学の精神に基づいて、「礼儀」「規律」「節度」を体得させる躰教育を実践する。 2.敬愛礼讓の心情と博愛の精神を育てる。 3.徳育・体育・知育の円満な発達をはかる。 4.知識と実践を兼ね備え、品性を尊ぶ人材を育てる。 5.「明朗」「勤勉」「実践」の精神に溢れ、新世紀を担う有能な人材を育てる。 6.国際交流への理解を深め、グローバルな視野に立った思考力と行動力を身につけた人材を育てる。
具現化目標	1.勤勉・博愛の精神を体得させ、繊細・優雅な人材を育成する。 2.個性尊重・自主積極性を育み、文武両道を実現する。 3.品性・礼節を尊び、挨拶を実践する躰教育を徹底する。 4.集団活動による相互扶助と協調の精神を育成する。 5.ICT教育による学力向上と各種検定資格・国家資格の取得増大を推進する。 6.寮・スクールバス等を有効活用することにより実践的教育を推進する。

*100点満点

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	前年度	成果と課題
1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価						
(1)	学校経営方針	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し教育実践に努める。	78	81	原点となる経営方針を教職員が十分理解した上で具体的な教育活動に繁栄させ、その取り組みや成果を生徒と保護者へ定期的に発信する必要がある。
			教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	73	74	
(2)	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神に則った適切な目標を設定する。	78	79	これまでの教育目標を一新し、建学の精神を基本とする現代の本校にあった目標を再設定した。教職員に確実に認識させ、目標に沿った指導を実践することが大切である。
			教育課題や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。	78	80	
(3)	学年経営	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	78	80	月1回の学年部会では確実に開催され情報共有が図られた。今後は、クラス格差や生徒格差が生じないように諸活動後の振り返りが更に必要である。
			学年部会を月1回以上開き、目標達成状況、指導上の課題や学年行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	85	83	
(4)	学級経営	学校目標及び学年目標に沿った活気あふれる学級づくりを行う。	学校・学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、意欲的な学級経営を行う。	78	78	学級経営の具体的な取り組みを模索しながら教員も日々努力している。しかし新型コロナ禍で臨時休校措置や各行事の相次ぐ中止などにより、教員と生徒とが向き合う時間や生徒が主体的かつ意欲的に活動する機会が減った。
			個別面談を学期に1回以上実施し、生徒の多面的理解を深める。	73	76	
			生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	78	82	
			学級通信を定期的に発行し、担任の熱意にあふれた情報発信を行う。	73	69	

(5)	学科 経営	学科目標 の具現化	学校目標及び学科目 標に沿った学科づくり を行う。	学科目標の教員・生徒への浸 透を図り、その目標達成のた めの教育活動を展開する。	75	79	新型コロナの影響で、対面授 業時数が削られながらも各学 科目標を達成させるため様々 な学習活動や進路決定に向 け工夫がみられた。特にオン ライン授業における通信媒体 の利用に大きな進歩があっ た。
				学科会議を月1回以上開き、 目標の達成状況、指導上の課 題や学科行事等について職 員間の共通理解を図り、統一 的な指導を行う。	83	83	
2 教育活動 教育活動全般における教育的成果の評価							
(1)	教育 課程 の編 成	創意工夫 された適 切な教育 課程の実 施	学習指導要領の趣旨 が生かされた特色ある 教育課程を編成する。	各学科・コースの特性や個々 の生徒の進路に適した教育課 程を編成する。	83	85	各学科の目標達成に向けた 厳選した教育課程になってい る。次年度から週32単位へ移 行するための準備等もしっかり 行われていた。
				教育課程の実効性や、教育目 標の達成状況を定期的に検 証する。	80	82	
(2)	教科 指導	わかる授 業の展開 と工夫・ 改善	創意・工夫がなされた 学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画 (シラバス)を作成し、学習目的 や学習方法を事前に生徒に 説明する。	73	77	各教科担当者も日々工夫を した授業を展開しているが、 更に生徒の理解度を分析し たり授業の進め方など教科内 で情報交換をするなど教材研 究を深める必要がある。タブ レットの活用は引き続き充実 している。
				教材研究や指導力の向上に 努め、効果的な授業を行うた めに研究授業に積極的に参 観したり、自らも研究授業を実 施する。	73	78	
				わかり易い授業を推進するた めに、生徒による授業評価を 定期的実施する。	75	76	
(3)	特別 活動	ホーム ルーム	学校・学年の教育目標 に沿った年間計画によ り、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準 備をよく行い、活発なホーム ルーム活動を実践する。	65	68	新型コロナの影響により、 様々な行事や生徒会活動が 中止となり、我慢の1年間で あった。その代替措置を検討 し取り組んではみたが、なか なか満足する結果は得られず 苦勞した。今後は現状を想定 しての計画を立て、実践する 必要がある。
		生徒会活 動の充実	生徒の自主的・自発的 な活動を推進する。	生徒の自主性を尊重し、積極 的・意欲的に活動に参加させ る。	75	76	
		学校行事 の充実	生徒の実態に即した効 果的な行事を企画運 営する。	効果的な学校行事となるよう 生徒・保護者の意見も参考に しながら常に工夫・改善を行 う。	75	75	
(4)	生徒 指導	基本的生 活習慣の 「見届ける 指導」	中途退学を未然に防ぐ ための生徒理解に務 め、基本的な生活習慣の 定着や交通マナーを 遵守させる、きめ細や かな指導を行う。	欠席のない、けじめあるクラス づくりの実践。	75	79	全体的には基本的な生活習慣 も定着し規律ある学校生活を 送っている。悩みや不安を抱 え、カウンセリング等の対応が 必要な生徒もおり、今後更 にきめ細やかな生徒との向き 合いを要する。服装・挨拶指 導については見届ける指導まで 徹底する必要がある。
				服装・容儀の徹底指導。 (特に頭髪・スカート丈)	80	81	
				挨拶の励行・時間厳守の浸 透。 (始業時間に授業がスタート)	83	85	
				交通安全指導の徹底 (違反者・事故者ゼロを目標)	75	80	
				教育相談・健康相談・悩みの 相談など多角的な生徒理解の 推進	85	88	

(5)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う	進路実現に向け、模擬試験や検定試験などを計画的に行う。	78	81	新型コロナの影響で、校外実習や進路ガイダンス等が中止され指導に苦慮した。評価点も低くなっているが、代替措置を積極的に取り入れ、進路決定に導いていた。今後も現状を想定して更に工夫を要する。
				進路実現に向け、講演会や三者面談・卒業生との交流会などを行う。	70	73	
				職業観・職業意識を醸成するための効果的な現場実習を体験させる。	68	71	
(6)	人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の育成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	80	83	看護・福祉を学ぶ生徒が多いことで他者との関わりの大切さを日常の学びのから体得している。また、部活動や寮生活を通じて助け合いや協力する心も養われている。個々の言動に更に目を向ける必要がある。
(7)	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援する。	70	73	新型コロナの影響で、大会中止や活動の制限等で生徒、指導者共に十分な活動ができず、不完全燃焼となり評価点も低かった。今後も感染対策を徹底し、更に人間形成、技術向上、大会入賞に向け環境を整える必要がある。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション能力などのたくましい人間力を育む。	73	72	
(8)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア精神の高揚を図る。	ボランティア情報を提供し、積極的・主体的な参加を奨励する。	65	69	一部の生徒の参加は意欲的で様々な活動に積極的に参加している。今後も全校生徒が取り組める活動も取り入れる必要がある。実際は、新型コロナの影響で大半は参加させていない。
				施設訪問や環境美化など、身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	75	78	
(9)	資格取得	各種資格取得奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定、漢字検定、ワープロ検定等に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	68	67	学科の学習や目標に必要なか否かで受験者数の差が大きいため評価点も低い。今後は将来を見据えて資格取得を目指す指導を展開する必要がある。

3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価

(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	83	85	教員の持つ専門性や資質等を考慮して適材適所の配置を行った。また他部署間の連携強化のために学年人数のバランスも配慮している。年間を通し、円滑な業務遂行がみられた。
				校務全体の円滑な推進のため各分掌間・学年・学科間の相互連携を図る。	83	80	
				分掌ごとの業務記録、資料の保存に努める。	80	79	
(2)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究などを行う。	生徒の実態や本校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年2回以上行う。	80	80	定期的に研修部の企画で職員研修が開かれ、教職員の業務向上につながった。研究授業も新入教員を中心に実施され指導力向上を図った。今後は、中堅・ベテラン教員の自己研鑽の場も増やす必要がある。
				指導実践力の向上を図るため研究授業及びその授業研究を各教科とも年1回以上行う。	73	77	
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	68	73	
(3)	現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター、各種教育研究会などの研修に積極的に参加する。	教育センター・私学協会・各教科教育研究会で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質向上を図る。	75	78	新型コロナの影響で、外部研修会等への参加はほぼできなかった。その分、校内職員研修の実施や個々の自己研鑽で対応した。

4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関する教育的成果の評価							
(1)	学校環境整備	快適な生活環境の整備	日々の清掃活動を充実させ、美化意識を高めるとともに、節電・節水など省エネ運動にも取り組む。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	85	85	清掃の取り組み状況は引き続き個人格差があり、指導に苦慮した。校舎内のトイレ改装で環境美化の意識が高まることを期待する。この後は「無言清掃」を徹底するよう指導予定である。
				特別な清掃活動(大掃除・愛校作業など)を月1回以上実施する。	80	83	
				省エネ運動を推進し、電気・水道使用料を前年比減に努める。	80	86	
(2)	施設設備の管理	有効活用と安全管理	施設・設備の有効活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備の保全に努める。	78	80	毎週の査察と並行して、学園も施設・設備の見直しや補修等を随時行っている。今後も施設・設備の安全運用と点検を継続させる必要がある。
				日常の教育活動においては、施設・設備の安全運用を最優先とする。	85	86	
(3)	情報インフラの設備の充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り効率的な事務作業を行う。	88	87	新型コロナウイルスの影響で対面授業ができない中、タブレット等を利用してのオンライン授業を積極的に展開し、授業を進める大きな成果が得られた。今後も今以上の授業が展開できるよう研修を重ねる必要がある。
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。諸帳簿類の保管管理体制を整え、適切に運用する。	88	89	
5 開かれた学校づくり							
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年1回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	75	76	例年実施のPTA総会・地区PTAは、新型コロナウイルスの影響で中止となり、具体的なPTA活動や保護者との直接的な向き合いができなかった分評価点も低い。保護者への情報発信手段としてホームページやSNS等を利用した。
				PTA総会・地区PTA・保護者会などを活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	65	74	
				自主的なPTA活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	65	70	
				PTA関係の会議への参加率向上に努める。	63	65	
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	関係中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	70	67	新型コロナウイルスの制限がある中、「南さつま飛び立て高校生事業」や学科、部活動単位で積極的に地域と連携できた。中学校への出前授業等も積極的に参加した。
				地域などからの苦情に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善をすみやかに行う。	68	68	
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う。	学校情報の積極的発信に努める。	68	64	広報部・情報管理部を中心に学校や生徒の様子をリアルタイムに発信できた。各部署からの発信が増せば更に閲覧も広がると期待する。

【総評】

【総評】

<p>評価の結果 (課題と問題点)</p>	<p>(1) 学校経営全般について コロナ禍のもと、学年・学科・学級それぞれの教育目標・具現化に向けて様々な工夫を凝らして取り組んだ。成果より、まずは実施することに意味があった。</p>
	<p>(2) 教育活動全般について ICT教育が一步前進した。ただ学科により温度差があり、全校的な取り組みの推進が今後の課題である。</p>
	<p>(3) 組織運営全般について 円滑な業務遂行がみられた。校内研修も定期的実施したが、外部研修会への参加は時節柄ほぼできなかった。</p>
	<p>(4) 教育環境全般について 清掃活動の充実は、積年の課題であるが個人格差があり、なかなか徹底しなかった。抜本的な対策が必要である。</p>
	<p>(5) 開かれた学校づくりについて 「飛び立て高校生事業」も軌道に乗り、多くの生徒が参加した。反面、残念ながらPTA活動は年間を通して停滞したままだった。</p>
<p>今後の改善策</p>	<p>(1)学校経営全般について 教育目標を大幅に改訂し、時代に即応した生徒育成に向け力強く前進する。</p>
	<p>(2)教育活動全般について 生活重点四項目(挨拶、掃除、服装容儀、スマホ・タブレット)を軸にした教育活動を推進するとともに、ICT教育の更なる充実を図る。</p>
	<p>(3)組織運営について 職員研修の回数を増やし、今まで以上に適切な教科指導や生徒指導が展開できるようにする。</p>
	<p>(4)教育環境全般について トイレの改装等もあり、改めて美化清掃の意識を高め、「無言清掃」の実践に取り組む。</p>
	<p>(5)開かれた学校づくりについて ホームページやSNSに加え、新たな学校通信を年に数回発行する。</p>